

# ★チャレンジ！夢に向かって★

＊～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

## 全校児童で稲刈り体験学習を行いました！！

5月20日（月）に田植えをした稲も稲穂がたわわに実り、黄金色に色づきました。その黄金色の稲穂が風に吹かれ、大きく波打つ季節となりました。

好天に恵まれた9月24日（火）、〇〇〇〇さんの絶大なる御支援によって順調に生育した田んぼの稲刈りを全校児童で行いました。昔ながらの鎌による手刈り作業ということもあり、JA秋田おばこ大仙市東部営農センターの皆さん、県立大曲農業高等学校太田分校の先生と生徒さんから教えていただきながら作業を進めました。特に、県立大曲農業高等学校太田分校の皆さんと交流するのは、本校では初めてのことです。御理解・御支援いただいた〇〇〇〇教頭先生、担当の〇〇〇〇先生に改めて感謝申し上げます。

稲刈り体験学習の前に、私から「実るほど 頭（こうべ）をたれる 稲穂かな」という言葉について紹介しました。十分に実り、黄金色に色づいた稲穂は、自然と頭が下がっています。このことはちょうど、稲穂がここまで生長できたのも、茎や根が稲穂を支え、養分を送り届けてくれたことに対する感謝に気持ちを表しているように感じます。子どもたちには、〇〇〇〇さんや稲刈り作業を指導してくださる皆さん、そして自然の恵みに感謝しながら作業するよう伝えました。

JA秋田おばこ大仙市東部営農センターの〇〇〇〇さんから稲の持ち方、鎌の扱い方などを教えていただいた後、全校児童で作業を開始しました。1・2年生は慣れていないということもあり、最初は戸惑いながら作業を進めていましたが、慣れてくると作業のスピードも上がり、きれいに刈り取ることができました。経験のある5・6年生は、最初からスムーズに稲刈り作業を進めていました。5・6年生は、稲刈り作業を終えた後、脱穀の手伝いもしてくれました。

終わりの会では、〇〇〇〇さんから「暑い日や大雨を乗り越えてここまで生長した稲です。今年はこれまでで一番、稲の株が大きかったです。稲刈りするときに、片手でつかめなかったと思います。皆さんが丁寧に苗を植えたことと、天候のおかげです。」という話がありました。〇〇〇〇さんにはこれまでの田んぼの管理とともに、子どもたちが安全に稲刈りができるよう、事前に環境を整えていただきました。見えないところで、子どもたちのために動いてくださったおかげで、今回の全校稲刈り体験学習は成り立っているのです。私は、こうした見えないところに気付き、感謝できることはとても大切なことだと思います。「実るほど 頭をたれる 稲穂かな」という言葉を人間の生き方に置き換えてみると、子どもが一人前の大人になるまでには、家族をはじめ、多くの人々の様々な支援があって、やっと一人前の大人になれることと同じではないかと思います。

子どもたちには、こうした体験活動を通して自然や地域に目を向け、感謝の気持ちをもちながら、豊かな心を育ててほしいと願っています。

